

# やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No.47 (2002.8.9)

事務局 TEL/FAX 0584-78-4119

大垣市田町1-20-1 近藤方

## 7/10・台風6号と徳山ダム

7月10日、テレビに「浸水している大垣市」の映像が繰り返し流れた。被害にあったの西端の比較的新しい住宅地・荒崎地区で、大谷川（揖斐川の支流・牧田川の派川）右岸の洗い堰からの越流が原因である。

翌11日、西濃地域選出の県議らが「徳山ダム早期完成」を梶原知事に要望。16日、知事は「徳山ダムの前倒しを水公団に折衝したい」と発言。徳山ダムが完成したら今回の水害は防げたと言いたらしい。

しかし今回豪雨に見舞われたのは中流部で揖斐川に合流する根尾川、牧田川の流域だった。揖斐川本流最上流部の徳山ダム集水域では大した雨は降らず、根尾川合流部より上の岡島地点ではピーク時でも水位は高くなかった(2.32m。計画高水位5.33m)。また大谷川の越流は本川の増水よりずっと早く

始まっている。揖斐川本川最上流部に巨大ダムを造っても、今回の水害は防げなかったことは明らかである。

### 徳山ダム前倒しを折衝

岐阜県  
梶原知事

### 大垣・洗堰対策で意向

梶原知事は11日、大垣市の荒崎地区を視察、泥水があふれて冠水被害となった洗堰や住民が避難する荒崎小学校体育館、勤労者総合福祉センターを訪れ、住民を激励した。排水作業が進む洗堰では、小川敏市長らが堰の構造や今回の水害の

実情などを説明、市議らが改善を要望した。梶原知事は「堤防のかさ上げが必要」としながらも「一つやれば解決するものでもない。徳山ダムなどいろいろな対策を、できることからやっていきたい」と答えた。

西濃地域の9県議  
尾川など県管理河川の改修を早く進める―などを求めている。

7/10朝日→7/11中日

## 恒例・徳山村キャンプ

### 8月24日(土)・25日(日)

昨年は50人もの参加を得て賑わいました。今年も大規模なものになりそうです。

8月24日(土) 13時 大垣駅北口出発

13時30分 揖斐川総合庁舎駐車場 出発

25日(日) 午後早く大垣に帰着できるように現地を出発

参加費：3500円(24日夕食・25日朝食：子供は無料)

参加ご希望の方は、事務局に電話でご連絡下さい。参加者の氏名も把握したいのでよろしく。 0584(78)4119 (FAX兼) 近藤方

# 台風6号 大垣豪雨禍の元凶・洗堰 治水無視の宅地化ツケ

7/20 朝日

七月十日の台風6号接近に伴う豪雨で、約五百六十戸が浸水被害に遭った岐阜県大垣市。被害の約八割は市西部の荒崎地区に集中した。揖斐川水系の大谷川右岸に広がるこの住宅地を襲った水害は、過去四十年余でなんと二十四回。その原因について、誰もが「洗堰（あついぜき）があるから」と口をそろえるのに、なぜ撤去できないのか。背景を探った。  
（大垣支局・中沢佳子）

## 早期撤去望み薄

### 40年間に水害14回も

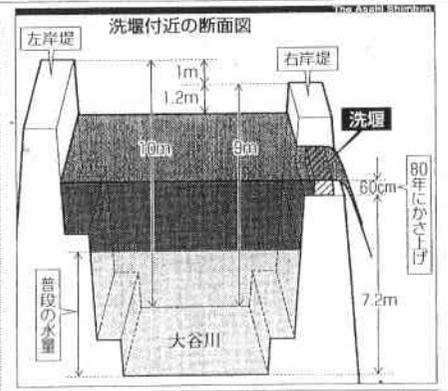
総合治水を考えよ  
高橋裕・東大名誉教授  
（河川工学）の話  
う所も宅地化が進んだ。専門家てつくる委員会を  
て両岸の堤防の高さが違  
う河川は多く、低い方に  
家を建てなかつた。一九  
六〇―七〇年代にそ  
う所も宅地化が進んだ。専門  
家がてつくる委員会を  
設け揖斐川や周辺河川も  
含めた新しい形の総合治  
治水を考える必要がある。

8/5 中日

#### 荒崎地区をめぐる動き

明治初め	大谷川左岸に築堤。右岸は無堤で自然に水が流れ込む遊水地
1945～51年	戦後の食糧難で、県営荒川開墾事業として約34㍊を農地に
1954～58年	右岸に堤防が築かれ、洗堰が造られる
1968年	大垣市住宅協会が住宅分譲を開始
1969年	都市計画法施行
1971年	荒崎地区が市街化調整区域に
1972年	岐阜県営荒崎団地建設
1975年	市内全域の土地利用見直しで、県営団地周辺が市街化区域に
1980年	洗堰を60㍊かさ上げ

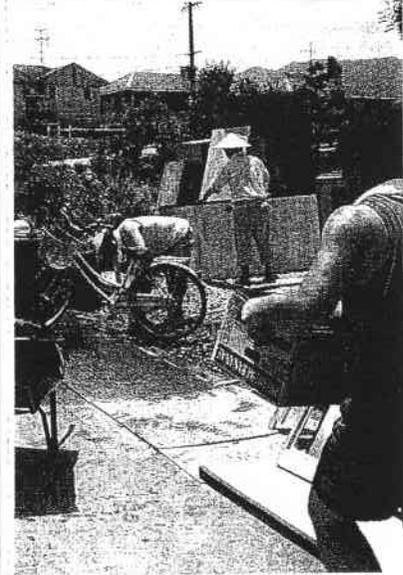
※洗堰築造後の1959年から2002年7月までに計14回の水害が起きている



### 洪水被害 大垣・荒崎地区の洗堰

## 住民「河川」一帯で改修を

台風6号による大雨で洪水被害が集中した大垣市荒崎地区。大谷川の洗堰からあふれた水が住宅につかるたびに、住民からは堰の撤廃を求め声があがる。しかし、撤廃を巡っては、周辺地区の何代にもわたる複雑な利害が絡み合う。「大谷川、相川、杭瀬川などを一体的に改修するしかない」。関係者からはそんな声があがっている。



台風6号の雨が降り続いていた10日午前6時、荒崎地区の十六町にサイレンが鳴り響いた。自治会長の小笠原正之さんは「相川がこんなに増水している。もうたまたま」と思った。午前6時半、153のすべての世帯から水害に備えて人が集まった。荒崎地区内は十六町、島町、長松町の三つに分かれる。島町と長松町は冠水したが、十六町は無事だった。

十六町に輪中堤ができ、たのは江戸時代といわれる。土地が低く、洪水被害が相次いだ同地区は堤を欲していた。が、堤ができれば、水は他の地区に行きかねない。周辺は反対した。住民たちは築堤を強行した。わずかに、一夜で土を盛ったという。周辺地区の一部は、くわを手に猛然と抗議。住民は「あざ道を高くしただけだ」と抗弁。時の政府に認められたのは明治時代だったという。小笠原さんは言う。「この堤は先人が敷いたがら造ってきたもの。今でも年1、2回の防災訓練は欠かさない」。一方、古くからの世帯が残る長松町。同町で生まれ育った自動車販売会社社長の大橋猛さん(66)は「プレハブの修理場の窓から見える景色に目をやる。洗堰の存在ゆえに水がたまりやす場所だが、宅地があちこちでき、分譲が続く。」(こいつら場所になって、いつまでも水害を受け続ける方がいいはずがないだろ)」大谷川を挟んだ左岸に広がるのは、静里、稜里の面地区。左岸堤は右岸堤より約1㍊高く造られたという。静里町の木村文彦市議は「静里も稜里も、決して洗堰の解消に反対するわけではない。昔に比べれば前向きに進めるようになってきている。現在、洗堰は一回、60㍊かさ上げしている」という。「(対岸は、遊水地としてこの周辺を水害から守ってきたが、そこがだんとん開発が進んでしまった。こうなった以上遊水地のままにしておくわけにもいかない」。荒崎、静里、稜里の3地区は大谷川や杭瀬川の早期改修を求める期成同盟会を結成し、県への陳情を続けている。島町の自治会長、神谷利行さんは「昔は、例えば陳情が10項目あったら、洗堰の優先順位は下から2番目くらい。それが今では上から3番目になった」と話す。十六町の住民の一人は「島町も十六町も同じ荒崎地区。洗堰はなくなった方がいい」と言う。「しかし、洗堰のことになると、町ごとに微妙な感情がある。昔からそういってこられた。相川、杭瀬川など周辺の河川も一体になって改修するしか、前進はないだろう」

載せた新聞記事でも分かるように、もともと遊水池だった場所を市や県が率先して住宅開発し、市街化区域にしてしまったところに間違いがある。人災である。

大谷川は県が管理している。梶原知事は建設省官僚として岐阜県に何度か出向し副知事を経て知事になったのだから、大谷川洗い堰と荒崎地区の市街化の事情は把握している筈で、何も対策を講じて来なかった責任がある。それを頬かむりして「地元が徳山ダムを要望している、早期完成を」とは良く言えたものだ。

大会運営委は「要らない水道水は返上して」という要望をもって地元自治体をまわり終えたところだが、町長達は要らない水の分の建設費を負担させられることについて何の認識もない。そして二言目には「徳山ダムを早く造ってもらわないと、住民の生命と財産が守れない」という。揖斐川流域の市町の首長や自治会、水防団などは「揖斐川の治水は、徳山ダムができなければ他のことは何もできない、徳山ダムさえできれば安心だ、と国や県が言っている。」と信じている。「だから早くダムを完成してほしい」。

しかし国交省や水公団が出した資料にはそういう文言はない。「揖斐川の治水計画は徳山ダム建設を前提としたものになっている」と説明しているだけだ。(なるほど事業主体の水公団は国の計画に従ってダムを造るのが仕事であり、計画そのものを検討する立場にない。開発水が要ろうが要るまいが、イヌワシやクマタカがどうなるかが、ダム工事を進めるというわけである)。そこで市民の側が「国交省の出した数字や方式を使っても、より良い代替案があるではないか」と国交省に突っ込むと「6億6千万トンの徳山ダムを造ることになっているから他の方法より経済的だ」とかわし「徳山ダムは地元が熱心に要望しているから造る」と言い募る。国と県が巧妙に「地元自治体の要望」を作り出し、批判に対しては「地元の熱い要望」を理由にはねつける。

「百害あって一利なし」の公共事業はこうして推進される、という典型である。

## 徳山ダム裁判

### ◎ 行政訴訟（事業認定取消訴訟・収用裁決取消訴訟）

今回は 10月9日（水）原告側・被告側双方から同時に最終準備書面を提出する。この日、原告（上田武夫・村瀬惣一）及び弁護団からの意見陳述もある。是非傍聴を。

このあと（最終準備書面に裁判所が目を通してから）、双方に質問をする期日を1回とって、結審する予定とのこと。結審は年末か。

### ◎ 公金支出差止訴訟（住民訴訟）

次回 9月6日（金）14時30分 / 次々回 10月18日（金）16時

原告会費未納の方、よろしくお願ひします。一般会費・カンパの方もよろしく。

////////////////////  
「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫

編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1  
TEL/FAX 0584-78-4119 Email: tokuyama@geocities.co.jp  
URL: <http://www.geocities.co.jp/WallStreet/1214/>  
郵便振替：00800-7-31632 年会費 2000円